

淀川水系・木曾川水系 湖北圏域
河川整備計画

計画概要説明資料

令和3年3月

滋 賀 県

◆◆◆ 目 次 ◆◆◆

1 . 圏域、河川の概要	1
1.1 湖北圏域の概要	1
1.2 河川の現状と課題	19
2 . 河川整備計画の目標に関する事項	56
2.1 計画対象期間、計画の対象河川	56
2.2 計画の目標	57
2.3 整備実施区間・調査検討区間・整備時期検討区間	63
3 . 河川整備の実施に関する事項	64
3.1 河川工事の目的、種類及び施工場所	64
3.2 河川維持の目的、種類及び施工場所	81
3.3 その他河川の整備を総合的に行うために必要な事項	85
4 . 超過洪水時の被害を最小化するために必要な事項	88
4.1 平常時における関係機関の連携	88
4.2 洪水時の連携強化	88
4.3 水防、避難体制の強化	88
4.4 水害に強いまちづくり	90
4.5 地域防災力の向上	90
4.6 超過洪水時の減災に効果のある河川管理施設の整備・保全	90
5 . 附則資料	92

1. 圏域、河川の概要

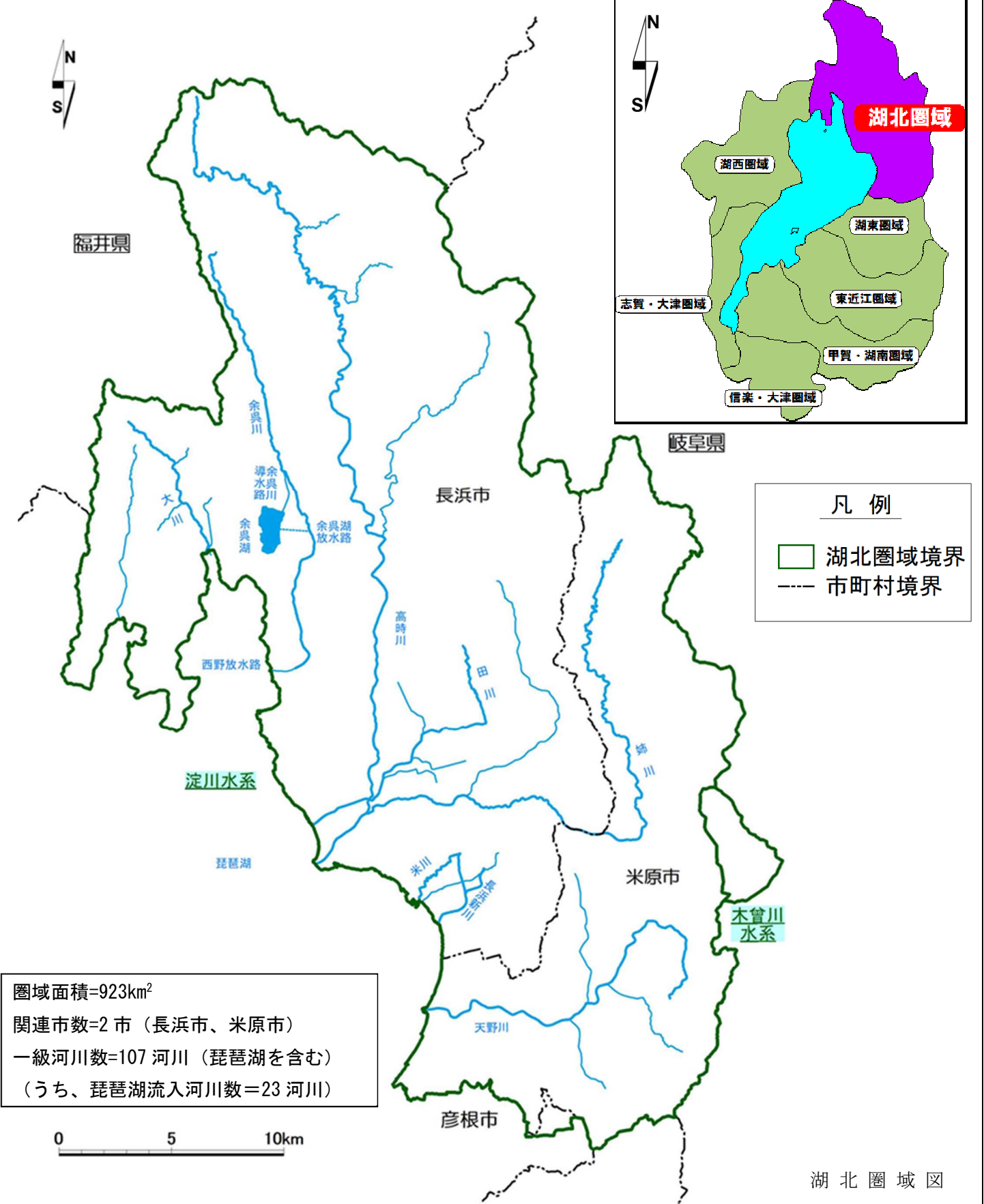
1.1 湖北圏域の概要

湖北圏域は、滋賀県の北東部に位置し、長浜市、米原市の淀川水系および木曾川水系(藤古川)に属する全ての一級河川(琵琶湖を含む)およびその流域を対象とし、その圏域面積は約923km²です。

圏域には、一級河川が全部で107河川(琵琶湖を含む)あり、琵琶湖へ直接流入する一級河川が23河川あります。主要な河川としては、北から大浦川、大川、余呉川、田川、姉川、高時川(姉川支川)、天野川等があり、これらの河川は、福井県との県境にある野坂山地や岐阜県との県境にある伊吹山地(伊吹山(1,377m)、金糞岳(1,317m)、土蔵岳(1,008m)、三国岳(911m)、三方ヶ岳(1,736m)等)に源を発しています。

圏域の北部には、湖水面積1.97km²、最大水深13mの自然湖である余呉湖があり、その水面は、琵琶湖よりも約49m高い位置にあります。余呉湖は、余呉川総合開発事業により導水路・洪水調節ゲート・放水路トンネル等が設置され、余呉川の洪水調節や不特定利水補給の機能を有しています。

【圏域概要図】



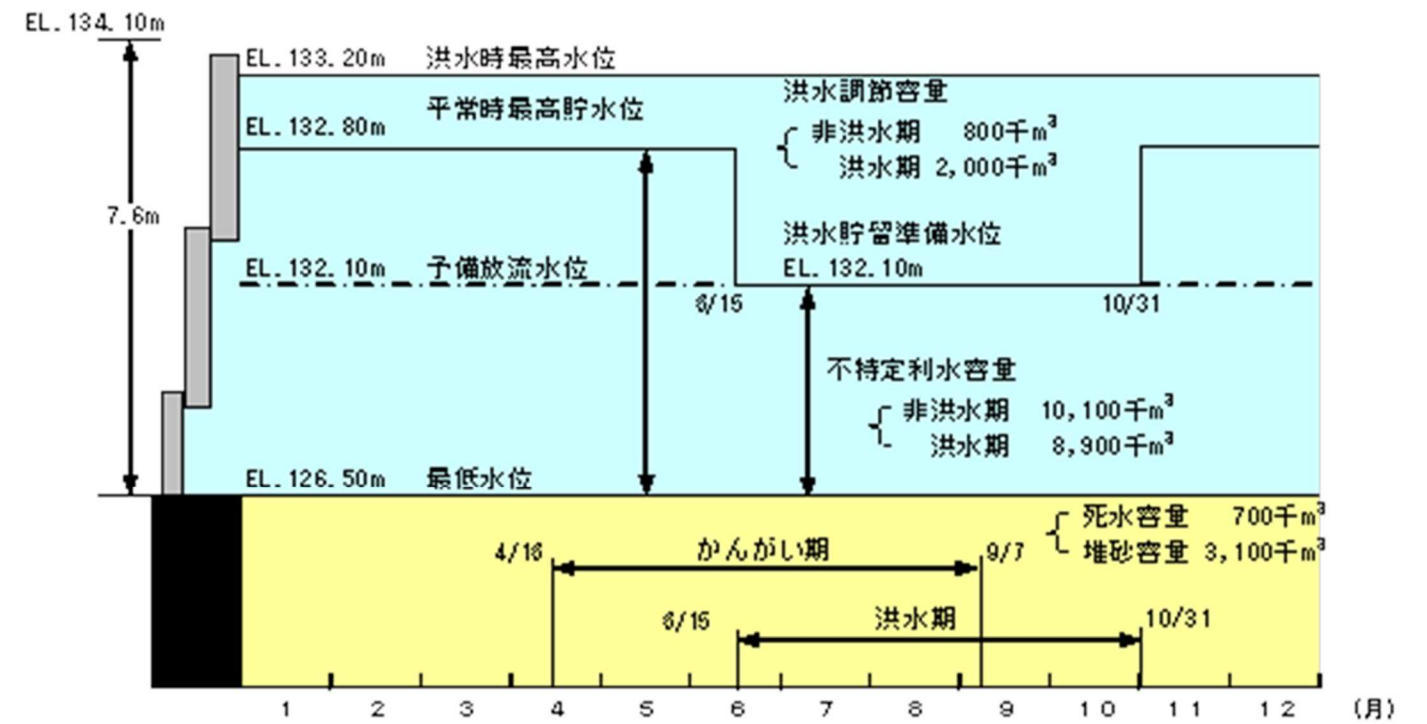
湖北圏域図

■余呉湖ダムの概要



「余呉湖ダム」は、余呉川沿いの洪水被害の軽減と湖北地方一帯のかんがい用水の補給のために湖水が利用できるように、自然湖である余呉湖に余呉川からの導水路、各種調節ゲート、放水路等を設置してダムの機能を付加したものです。

■容量配分図



出典：滋賀県 HP より

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kendoseibi/dam/19222.html>

(地形・地質)

滋賀県の地形は琵琶湖を中心として周囲を北に野坂山地、東に伊吹山地、鈴鹿山脈が、西に比良山地、南に甲賀山地が取り囲んでいます。琵琶湖の東から南東側は、丘陵地・扇状地、三角州等が広く分布しています。一方、琵琶湖の北から西側は、扇状地・三角洲等の低平地が少なく、急峻な山地が湖岸に迫っています。

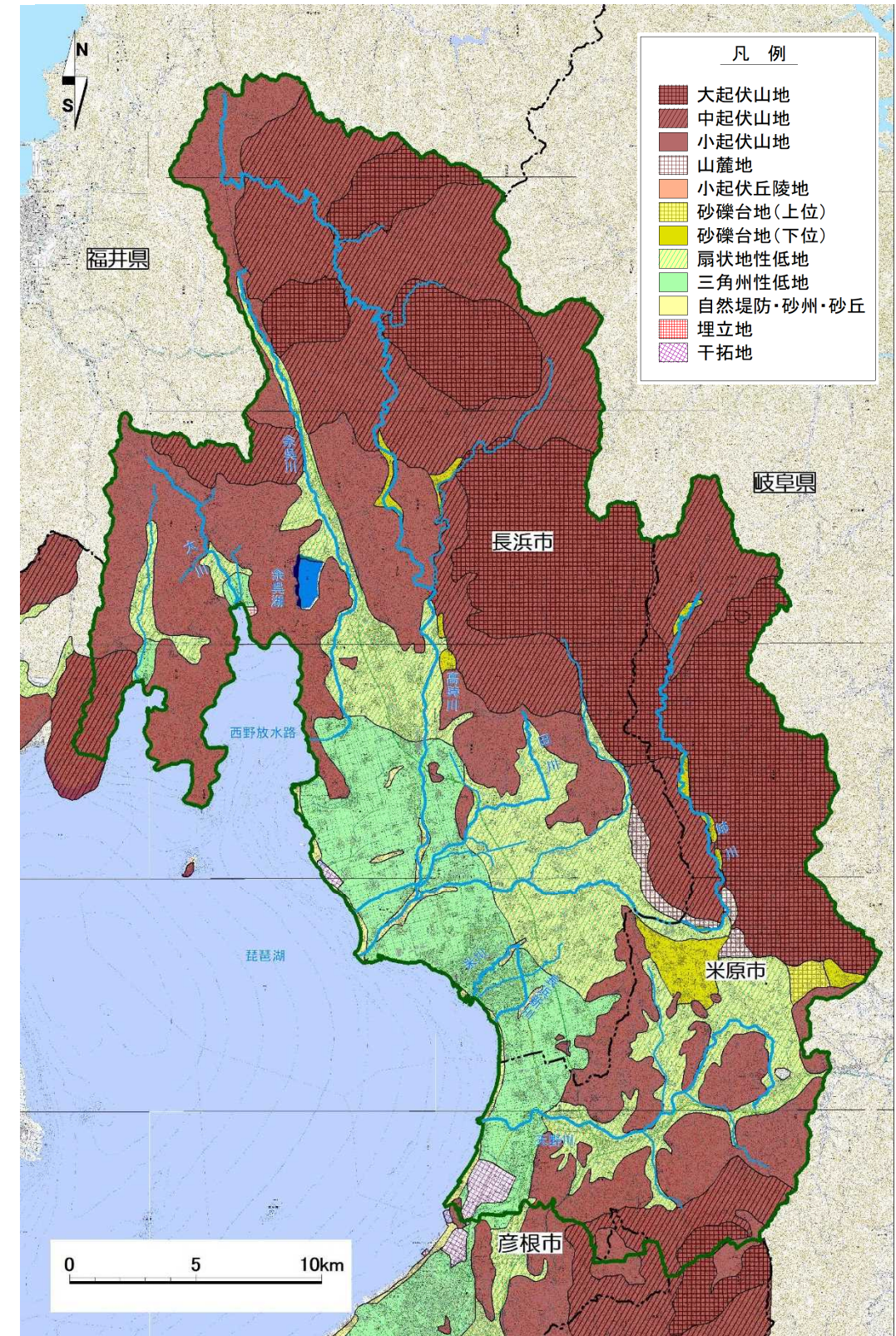
圏域の河川には、山間部のV字谷を流下して、谷を出た箇所に扇状地が形成され、また湖岸には三角州が形成されています。このため、圏域を代表する姉川・高時川や余呉川等では、河床上昇によって発生する氾濫を防御するため、堤防の嵩上げを繰り返した結果、天井川となっています。

圏域北部の地質構造は、柳ヶ瀬層に大きく影響されます。柳ヶ瀬断層に沿った地域では、東西両翼の地層が柳ヶ瀬断層に向かって走向を北に急変して断層と並走しています。

地質の分布をみると、河川沿いおよび下流部一帯に広がる低地部には沖積層が広がっています。余呉川、高時川の中・上流部には、大部分が古生界二畳系の粘板岩を基盤とした地質が広がり、その中にチャートや塩基性火山岩等が見られます。また、姉川の源流部では、花崗岩が広く分布しています。大川より西側の地質は、琵琶湖より山地部に向かって、塩基性火山岩、粘板岩、花崗岩の順に分布しています。

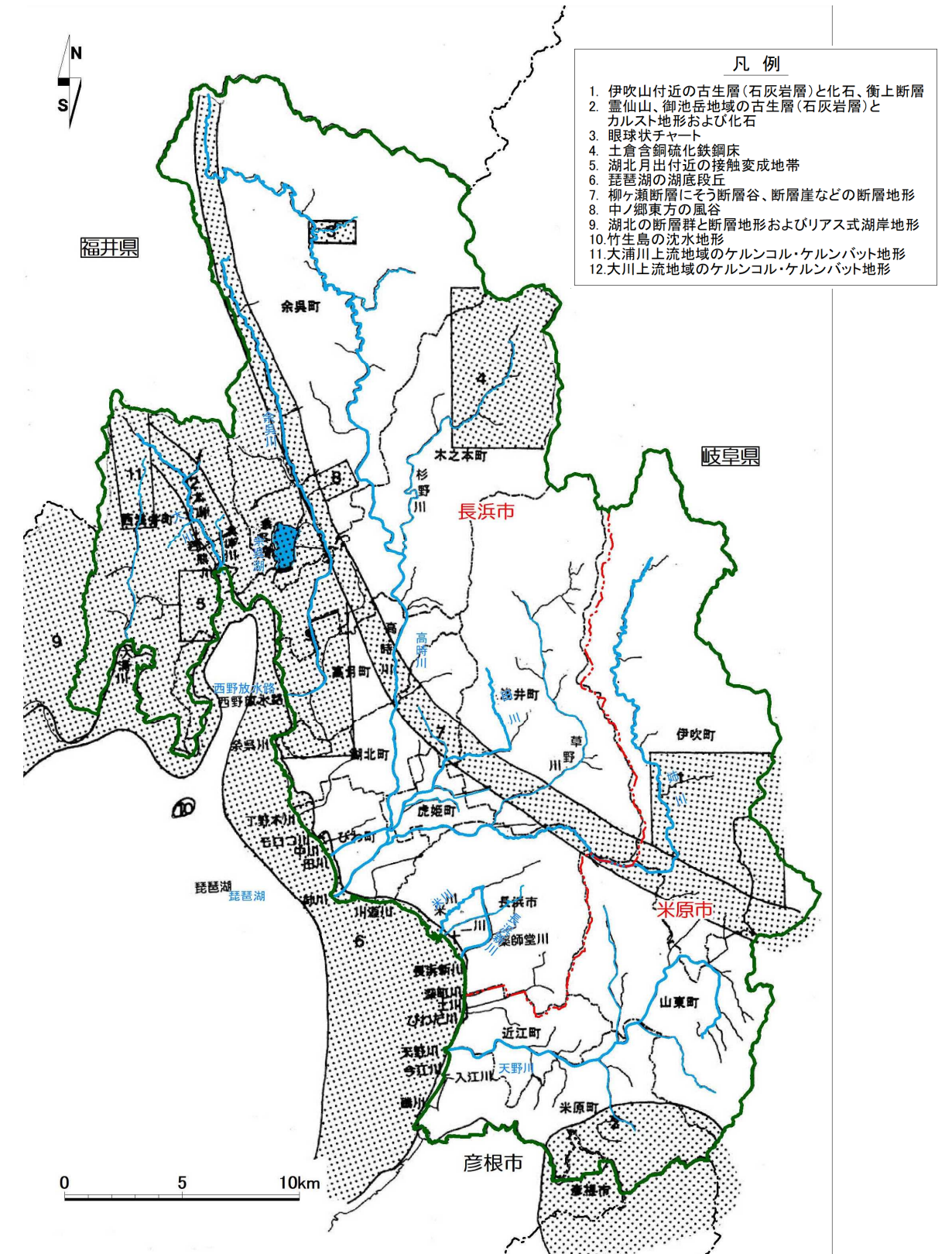
圏域内の地形・地質のうち主なものとしては、土蔵岳周辺の「土倉含銅硫化鉄鉱床」、高時川源流部の「眼球状チャート」、伊吹山周辺のフズリナ化石を多く含む「伊吹山付近の古生層(石灰岩層)と化石および衝上断層」、余呉川沿川の「柳ヶ瀬断層に沿う断層谷、断層崖等の断層地形」、高時川上流の「中ノ郷東方の風谷」、大浦川および大川上流域の「ケルンコル・ケルンバット地形」、余呉川一帯の「湖北の断層群と断層地形およびリアス式湖岸地形」、「琵琶湖の湖岸段丘」等があります。

【地形



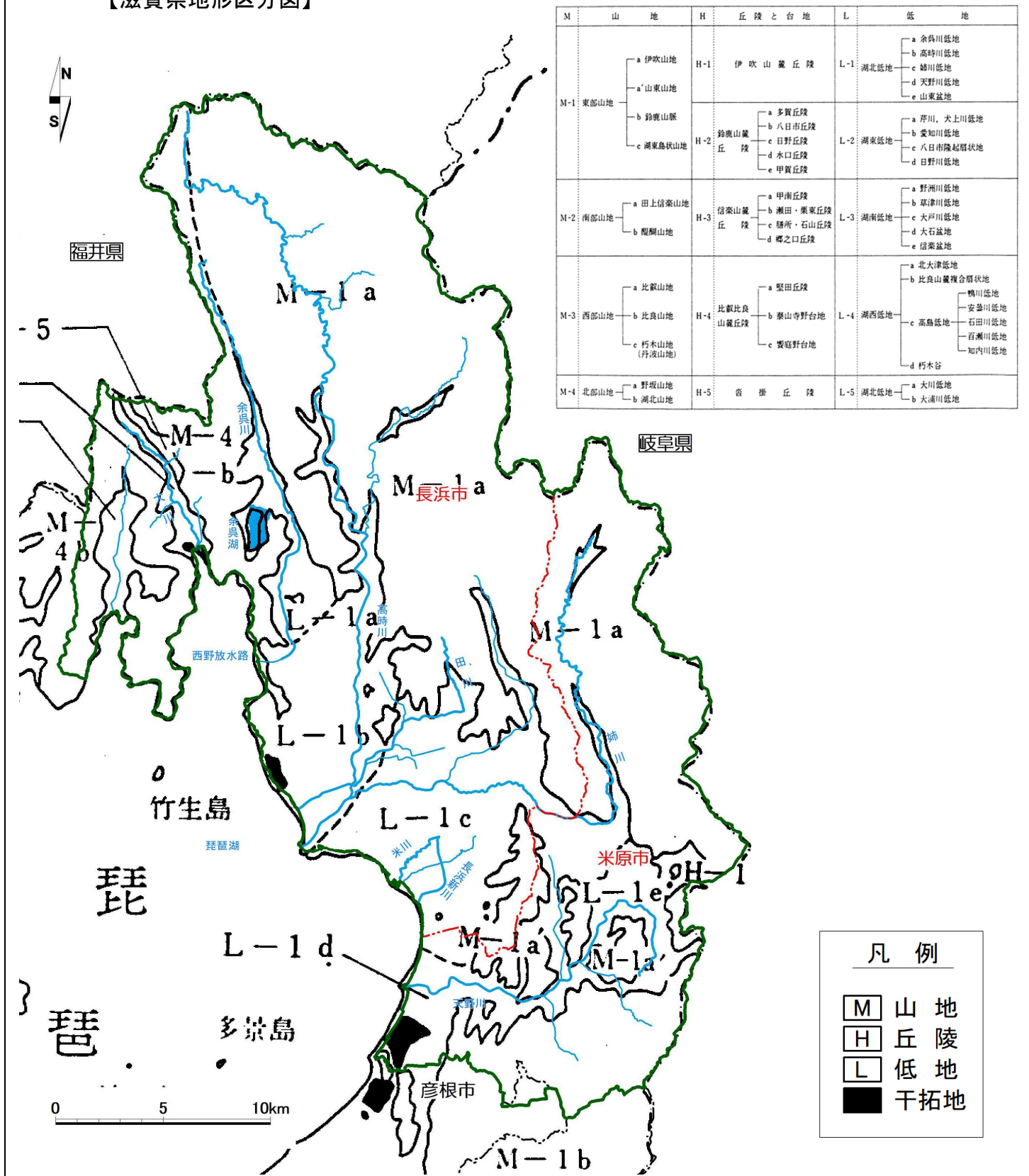
出典：1/20万 土地分類基本調査、地形分類図(国土交通省 国土情報課)に一部加筆

【地質】



出典：滋賀県すぐれた自然図/環境庁(1976)に一部加筆

【滋賀県地形区分図】



出典：滋賀県の自然／(財) 滋賀県自然保護財団(1979)に一部加筆

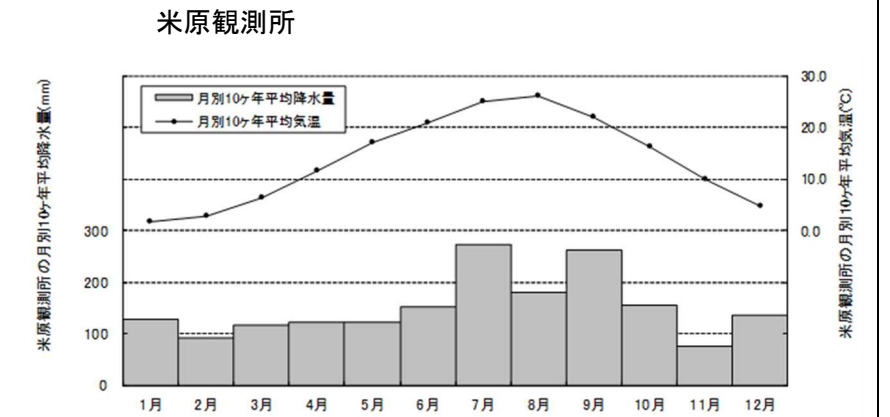
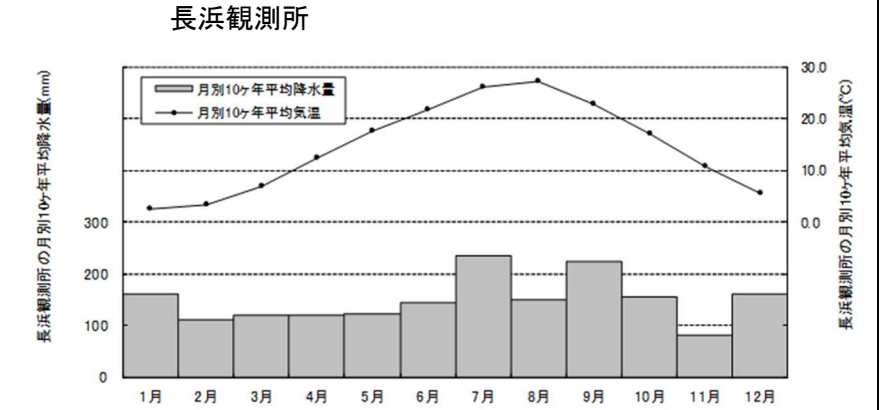
(気候)

日本列島のほぼ中央に位置する滋賀県は、周囲を高い山々で囲まれており、日本海型気候区(北陸地方)、瀬戸内型気候区、東日本型気候区(東海地方)が接した位置にあります。このため、滋賀県の気候は、温暖な東日本・瀬戸内型と冬季に雪による降水量が多い日本海・中部山岳型の気候を相備えながら、琵琶湖の気候調節作用にも大きな影響を受けるため、県全体を一気候で特色付けられません。

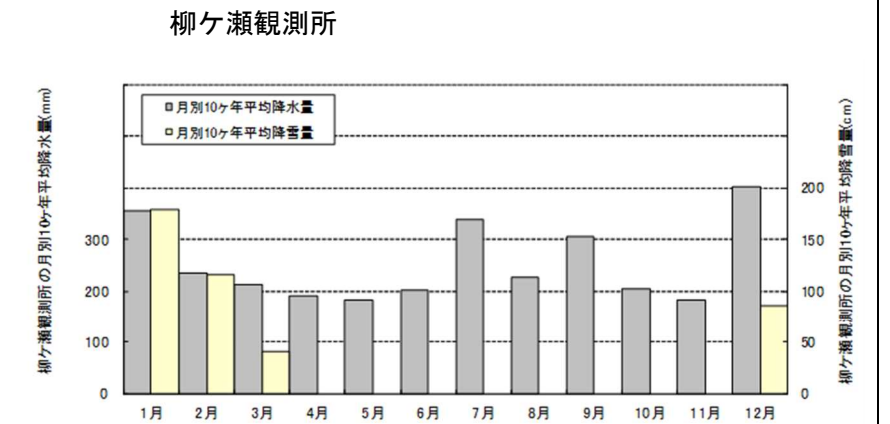
圏域は、滋賀県気候区分の湖北気候区に属し、北陸や飛騨からのびる多雪域の南西端に当たり、降積雪量が県下で最も多い地域です。特に、福井県境に近い長浜市余呉町の山間部ではその傾向が顕著です。山間部の柳ヶ瀬地域気象観測所では、降水量、積雪の観測が行われており、冬季の降雪が多いため、年間降水量が約3,000mmと多くなっています。



【月別平均気温と雨量のグラフ (H22~31)】



【月別平均降雪量と雨量のグラフ (H22~31)】



※降雪量については1月～3月及び12月について集計した。

1月の降雪量は H26(2014)年及び H30(2018)年が欠測のため8ヶ年の平均とした。

2月の降雪量は H25(2013)年及び H26(2014)年が欠測のため8ヶ年の平均とした。

3月の降雪量は H24(2012)年及び H25(2013)年が欠測のため8ヶ年の平均とした。

出典：気象庁 過去の気象データ検索

(自然・景観)

圏域では、山地部を中心に良好な自然環境が広がり、琵琶湖、余呉湖周辺および伊吹山周辺が昭和25年に我が国最初の国立公園である「琵琶湖国立公園」に指定されたのをはじめ、賤ヶ岳しずがたけの合戦で有名な「賤ヶ岳」が“新雪賤ヶ岳の大観”として琵琶湖八景の一つとなっています。また、長浜市の豊公園周辺をはじめ米原市(旧山東町)の三島池周辺、長浜市(旧虎姫町)の大井・姉川の清流、長浜市(旧木之本町)の賤ヶ岳、長浜市(旧余呉町)の余呉湖畔等23件が湖国百景となっています。

さらに、姉川については滋賀県の「ふるさと滋賀の風景を守り育てる条例」に基づき、平成元年に河川景観形成地区に指定されています。また、琵琶湖周辺地域では、景観形成重点区域が設定され、景観の保全を行っています。

【自然・景観】



出典：長浜市地図サービス <http://www.sonicweb-asp.jp/nagahama/>
 米原市 景観法に基づく届出および区域について <http://www.city.maibara.lg.jp/0000003731.html>
 より作成

(歴史)

圏域では、河川のもたらす肥沃な土壌が豊かな実りを生み、その水は古くから農業用水だけでなく生活用水としても使われてきました。集落内を流れる農業用水路を活かしたまちづくりで長浜市高月町雨森が全国的に知られる等、昔ながらの地域と水との関わりが今もなお形を変えず受け継がれています。

地域に恵みを与える河川水ですが、川の水量は乏しく、用水の確保に悩まされ、姉川や高時川ではしばしば水争いが起こりました。しかし、第二次世界大戦後、土地改良事業が進み、今では合理的な取水が行われています。

また、圏域は地形的に東と西を結ぶ交通の要衝にあったため、飛鳥時代に天智天皇の太子・大友皇子と皇弟・大海人皇子が争った壬申の乱では天野川が戦場になりました。また、戦国時代に織田・徳川軍と浅井・朝倉軍が激突した姉川の合戦では姉川が戦いの舞台となりました。この他、ゲンジボタルの発生地として有名な天野川は、息長川の名で万葉集にも詠まれており、生活にとけ込んだ川であったことが伺えます。

このように圏域では、古くから地域社会と川との関わりが深く、川は圏域の歴史と文化を育む重要な役割を果たしてきました。

(文化財)

滋賀県は、美しい自然とそれぞれの時代を代表する豊かな歴史文化資産に恵まれ、国宝をはじめとした文化財の数は全国でも有数を誇っています。

圏域の文化財は、国指定が123件、県指定が122件あります。(出典：平成30年度 滋賀県統計書)

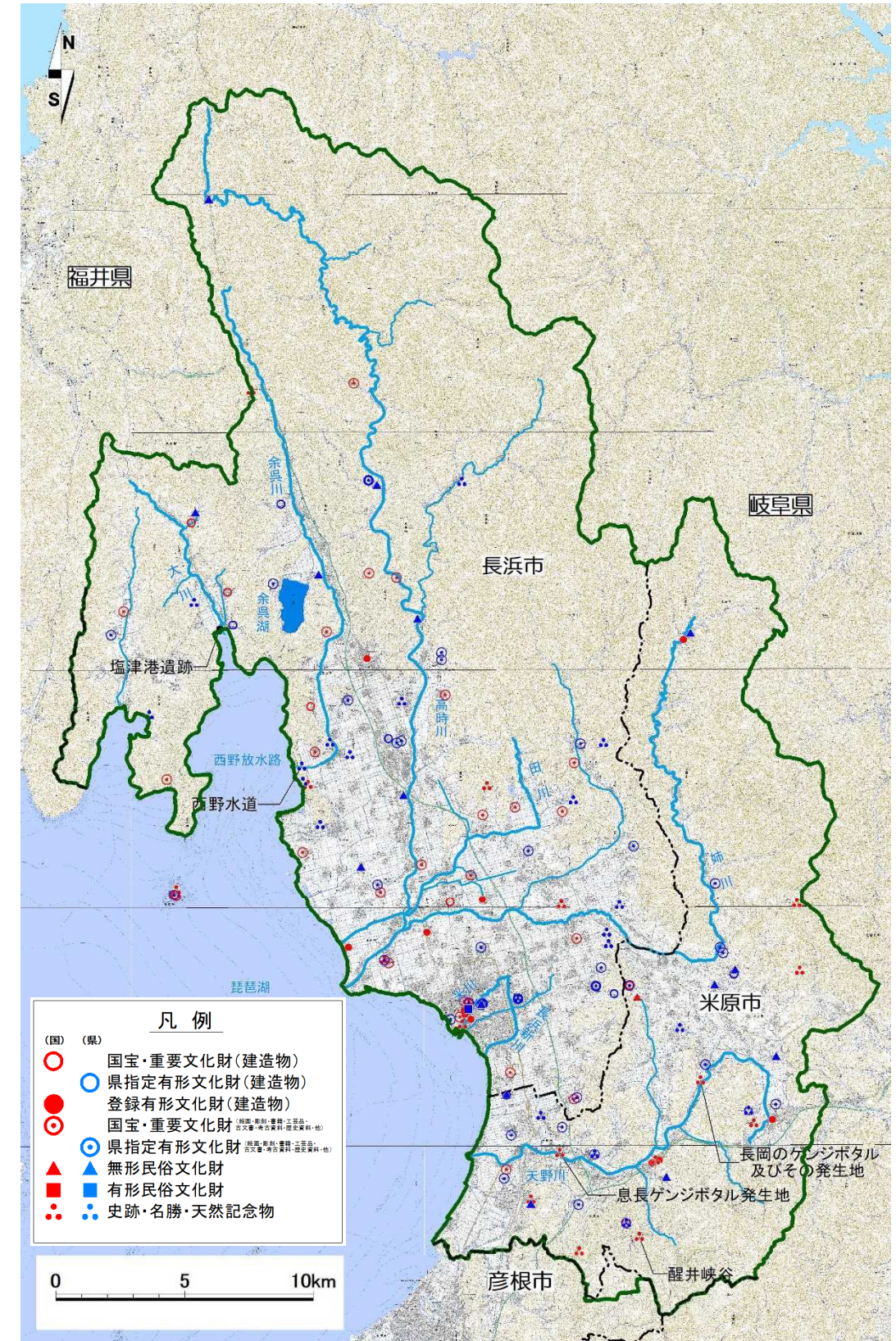
河川に関する文化財としては、天野川に架かる天野川橋一帯が「長岡のゲンジボタルおよびその発生地」として国の特別天然記念物に指定されています。また、米原市(旧近江町)の南部を西流する天野川(息長川)一帯が「息長ゲンジボタル発生地」として国の天然記念物に、丹生川の支流、総谷川上流部の「醒井峡谷」は国の名勝に指定されています。また、圏域には特別天然記念物オオサンショウウオの生息も確認されている。

余呉川は、もともと長浜市(旧湖北町)地先で琵琶湖へ流入していましたが、度重なる洪水を防ぐため、江戸時代後期に西野恵荘が山を掘り抜き「西野水道」を建設しました。その後、昭和25年に新たな水路が掘られ、さらに昭和55年に現在の放水路が完成しました。現在の放水路は昭和55年に完成したのですが、「西野水道」は人々と洪水の闘いの歴史を物語る県指定の史跡として今もその姿をとめています。

塩津港は、海津・大浦とともに湖北三湊の1つと称され、古代以来、北陸地方の物資を湖上交通を使って京都へ運ぶための集積地として、重要な位置を占めていました。大川から大坪川の河口部に広がる塩津港遺跡は、発掘調査により神社の遺構が見つかるとともに、全国初となる起請文木簡などの大量の遺物が出土しており、現在、国の史跡指定に向けた取り組みを進めています。

田川は江戸時代の終わりごろまで、現在の長浜市落合町付近で姉川・高時川と合流していましたが、姉川・高時川の河床が年々高くなり、大雨が降ると田川へ逆流して洪水になりました。1860年、長浜市(旧虎姫町)の月ヶ瀬、唐国、田、酢の村総代が幕府に願い出て、田川伏樋工事(木製ボックスカルバートによる高時川の横過)の難工事が実施されました。また、明治16年にオランダ人技師デ・レーケの指導により工事が開始され、明治18年に石・レンガ造りへの改築工事が完了しました。その後、2

【文化財位置図】

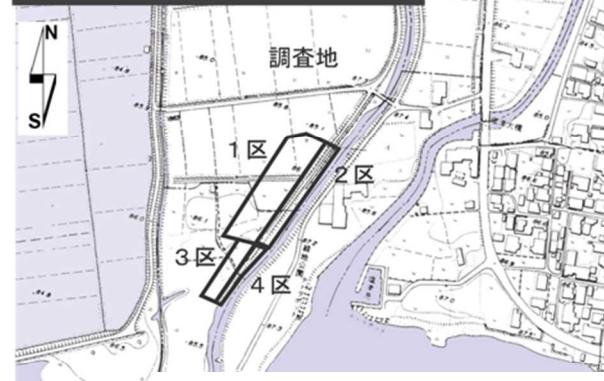


出典：長浜市所在指定文化財一覧(平成27年4月1日現在)
米原市の文化財紹介(米原市HP)
をもとにGISにて作成

(土地利用)
 圏域の土地利用は、総面積の約80%が山林等、約15%が農地、約5%が宅地です。

【塩津港遺跡】

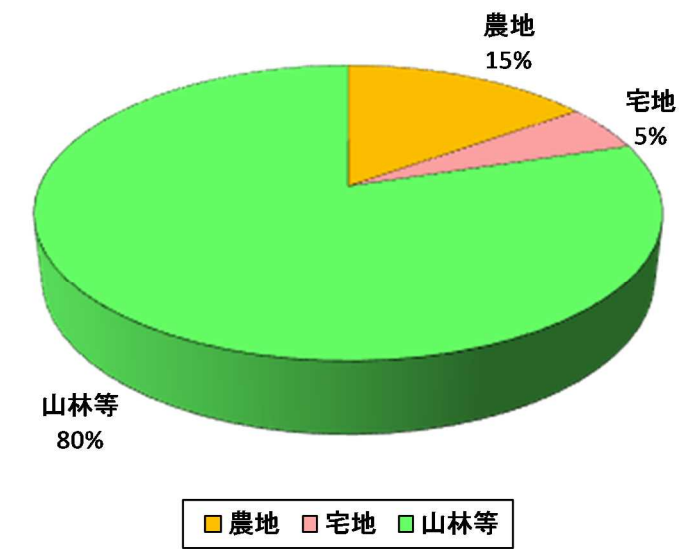
大川の文化財調査



調査期間：平成18年度～令和2年度(予定)
 調査面積：約5,000m²



【圏域の土地利用の割合】

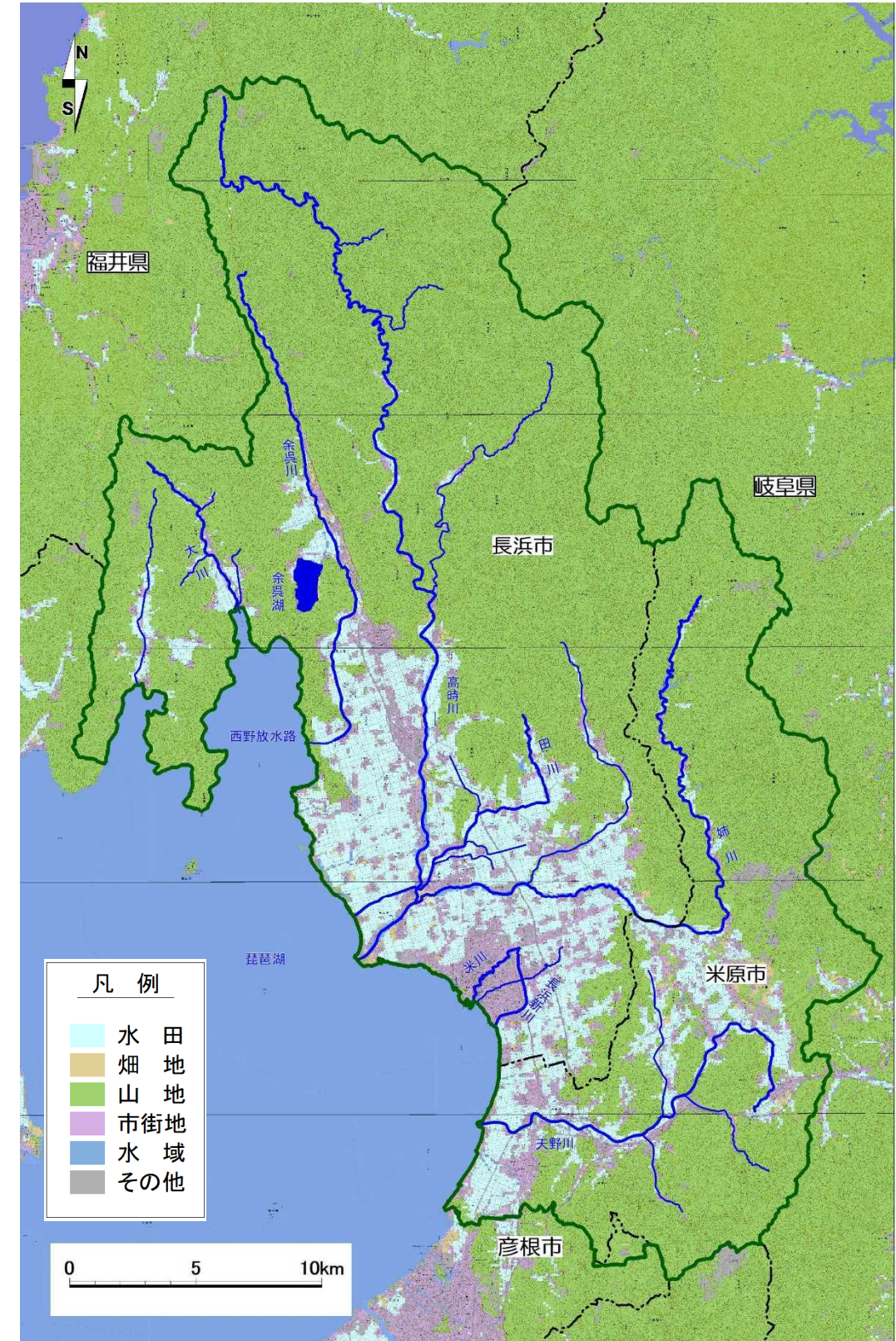


単位：ha

	総数	農地	宅地	山林等
長浜市	53,963	8,646	2,737	42,579
米原市	22,307	2,948	1,127	18,232
合計	76,270	11,594	3,864	60,811

2018年1月1日現在
 出典：滋賀県 平成30年度(2018年度)統計書
<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/tokei/tokeisyo/310394.html>

【土地利用図(平成28年)】



出典：国土数値情報 ダウンロードサービスより作成
土地利用細分メッシュ <平成28年>